

令和 5 年 5 月 25 日
学校法人 大乘淑徳学園

令和 4 年度の資金運用結果について

令和 4 年度は新型コロナウイルス感染状況の収束が遅れるなか、ロシアのウクライナ侵攻により、食料やエネルギー価格を中心とした商品市況価格の高騰を通じて世界経済と金融市場に大きな影響を与えました。

欧米各国の中央銀行は金融引き締めを行いました。日本では日銀による異次元の金融緩和を続けた結果、急激な円安進行等マーケットは大きく変動しました。

マーケットは年度後半から利上げを織り込んだ形となり、日銀は 12 月 20 日に長期金利の変動許容幅を従来の 0.25%程度から 0.5%程度に広げました。

本学園では、上記の状況の下、資金運用規程に則り、資金運用委員会・資金運用小委員会を組織して、令和 4 年度資金運用方針に基づき資金運用に取り組みました。

以下に令和 4 年度の資金運用結果についてご報告いたします。

1 預金（期末残高 105 億円）

満期を迎えた定期預金などについて、一定の預金量を有し健全経営を行っている金融機関のなかから、利率面で有利なところへ預け入れを行いました。日銀による長短金利操作付量的・質的金融緩和が継続するなかでの結果となりました。

運用益は 2,477 万円（利回り約 0.23%）となりました。

2 社債（期末残高 約 110 億円）

社債については、生保の劣後債 2 銘柄 10 億円を新規に購入しました。

運用益は 1 億 951 万円（利回り約 0.99%）となりました。

3 金融債（期末残高 約 25 億円）

金融債については、保有する債券で運用を行いました。

運用益は 2,357 万円（利回り約 0.94%）となりました。

4 その他（期末残高 49 億円）

低金利のなかで安全で一定のクーポン収入が期待できるクレジットリンク債 1 銘柄 5 億円を新規に購入しました。

運用益は 4,919 万円（利回り約 1.00%）となりました。

以上